

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結ぶ —

校長室だより No.39

“やさしく かしく たくましく”

～ 本気と礼節の教育 ～

令和5年3月1日 文責:安生昌弘あんじょう まさひろ

◆ 子どもは子どもの中で学び育つ

先日の「わくわく参観日」においでいただき、ありがとうございました。お子さんの発表や表現活動の様子は如何でしたか。「家で『とても上手だったね』とほめられました。」と話す子もいたようですが、親の目から見ると、「もうちょっと頑張って声を出して欲しいんだけど…」という子も居たのではないのでしょうか。実は20年近く前、私の娘が小学5年生の時の授業参観でも同じようなことがありました。



私の娘は、上が兄のためか、男勝りで育ちました。ところが、どうしたことか小学校に入学すると、学校では蚊の鳴くような声でしか話しません。家で兄と喧嘩する時のような声ではないのです。授業参観や学習発表会の時に「はっきり話せよ!」と何度叫びたくなったことか。家でいくら言っても聞かせてもダメでした。中学校に入ると、ますます小さな声でした。

その娘が劇的に変わったのは高校に入った時でした。4月の授業参観に行くとハキハキと話しているではありませんか。驚いて訊ねると、高校で出会ったハキハキ話す友達に「もっとハキハキ話しな」と一喝されて変わったそうです。気の合う友達からの言葉は効果抜群でした。

「学(まな)ぶ」の語源は「真似(まね)る」だという説があります。学ぶ事の第一歩は良い事を真似する事から始まるのです。学校で子供達が互いに良い事を真似し合う事に勝る「学び」は無いのかも知れません。私の娘も仲の良い友達に一喝され、真似をすることによって、今では誰に対してもハキハキと話すようになりました。コンピューターを相手に独りで勉強をすることも可能な時代になりましたが、子どもは子どもの中で学ばなければ育たないものです。これが学校の存在意義の一つだろうと考えています。

◆ 先生の書き入れ時

いよいよ3月になりました。「弥生三月、別れの春」とも言いますが、先生達にとっては、超多忙な時期を迎えます。全員の学習が落ちなく終わられるように指導しながら、通知表を書き、来年度の教育の計画を立てるのです。「商売」で言うところの正に「書き入れ時」です。それで、昨日から明日の3日間を特別時程として少し早く子どもたちを下校させています。放課後の時間を少しでも多くして仕事を進めるためですので、ご理解ください。うまく仕事が進み、無事に別れの時期を迎えられることを願っています。



学校と家庭がタッグを組み、一つ（ハイブリッド）になって2倍以上の力（パワー）で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。